調査区遠景（南から）

城内最大級の鍛冶工房の発見

⑦特別史跡 多賀城跡附寺跡（たがじょうあとつけたりてらあと）（多賀城市市川）

遺跡の詳細な解説動画はこちらから！

多賀城市北部の丘陵上に立地する、奈良・平安時代の陸奥国府（むつこくふ）です。奈良時代には軍事を担う鎮守府（ちんじゅふ）も置かれ、東北地方の行政・軍事の中心的施設でした。

多賀城跡調査研究所による発掘調査が昭和44年より継続して行われています。

調査の結果、８世紀末～９世紀前半頃の鍛冶炉（かじろ）がみつかり、周辺からは鉄製品や多数の鉄滓（てっさい）が発見されました。

政庁のすぐ北側で、集中的に鉄製品の製作が行われていたことがわかります。

旧石器　縄文　弥生　古墳　飛鳥　**奈良　平安**　鎌倉　室町　安土桃山　江戸　明治

鍛冶炉は、同じ場所で作り直されているものもありました。また、炉の周りや穴には、多くの炭や鉄製品、鉄滓がみられたことから、鍛冶で不要となったものを捨てていたと考えられます。

鍛冶のイメージ図

最低１回の鍛冶で1個排出される椀形滓(わんがたさい)(鉄の成分がわずかにしか含まれない椀形をした不純物の塊)が100個以上もみつかっており、これまでに城内でみつかっている量と比べても最多級です。

鍛冶炉の年代が、伊治公呰麻呂(これはりのきみあざまろ)の乱（780 年）に近いため、乱によって焼失した政庁の復旧に使う鉄製品をこれらの鍛冶炉で作っていた可能性があります。

協力：宮城県多賀城跡調査研究所